

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	あざみ		
○保護者評価実施期間	令和8年 3月1日		～ 令和8年 3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 11名 (うち1家族複数児童利用含む)
○従業者評価実施期間	令和8年3月1日		～ 令和8年 3月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月29日		

## ○ 分析結果

順	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援環境 支援に携わる職員や子どもの人的環境、施設の環境が子どもの居場所として保護者からも好感がもたれている。	子どもが自分で選んだ活動を安全に安心して楽しむことが出来るように活動場所、職員配置、課題を工夫している。問題が生じた時のことを考え、その場面の環境をどう切り替えていくかも朝の打ち合わせ等で話し合っておく。	障がいの特性を考え、時間や空間を分かりやすく構造化する。不安な気持ちを落ち着かせる環境を整えることを今以上に取り組んでいく。
2	適切な支援の提供 令和7年度事業計画の基本方針、具体的活動内容、重点目標に合わせて支援した。	4つの基本活動を個々の状況に合わせて支援している。個別支援計画でもスモールステップが基本となっており本人の達成感を大切にしている。遊びや体験活動においては、年間計画の重点目標に挙げている子どもの「やってみたい、作ってみたい」の気持ちを大切に受け止め、子ども中心の支援を心掛けた。	地域とのつながりにおいては保護者様からはご心配をされる意見がうかがっていますが、散歩中の公園で清掃活動の方々と一緒に掃除を手伝っていただいたこと、事業所の隣の公園では保育園児、近隣の小学生と会話を楽しむ光景が見られます。地域が安全安心な居場所なることにつながると考えています。法人のSラーニングを職員一人一人が主体となって利用し、支援力を強化していけるとよい。
3	保護者様への説明 関係づくり	支援計画作成にあたっては、保護者様の思いに寄り添い、具体的な場面をお伝えして支援方法を提案している。ご心配事や困りごとを遠慮されずに話していただけるような関係づくりを心掛けている。	保護者様同士の交流のための活動を支援しているが、きょうだい支援も試してみたい。なにができるか検討したい。

順	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	業務改善 現状はすべての職員が業務改善に携わっているわけではない。	チーム意識も強くなってきている。支援者会議や法人全体研修においても出席者みんなが意見を出し合える雰囲気になってきている。今後は職員全員で業務改善を意識して支援者会議を運営していけるとよい	放課後等デイサービスを知ることが必要だと思う。年度初めの支援者会議に全員でガイドブックの読み合わせを行い、何を求められているかを共有したい。
2	非常時の対応 月1回の避難訓練を実施している	訓練の振り返りが十分ではない。訓練時に新たな問題点は出ているが、今後どうしていくかの改善まで行っていない。ヒヤリハットは作成時に共有はできているが、同様の出来事の再発が見られる。	その都度、今すぐに対応できることを検討し改善、周知、実行に努める。ヒヤリハットにおいては原因やその時の職員の配置について検証し、どのように連携すれば防げたかを共有し再発につなげていく。
3	地域との連携 地域資源の利用	法人においては、全体研修での講師、地域支援連絡会などで地域との連携を深めアドバイザーの役割もお願いしているが、事業所単独での意識は低い。地域資源は職員が把握できていない部分が多いように感じられる。もっと利用や連携を深め支援に反映できるとよい。	浜松市障害児放課後支援連絡協議会で開催される研修や、児童発達支援センター主催の研修に多くの職員が参加できるような体制を整えていく事を提案したい。